

■ OnAir 3000 ユーザーレポート

株式会社サンテレビジョン 様

OnAir 3000



ニュースサブ・受けサブに OnAir 3000 を採用



サンテレビジョン様は、2008年2、3月に音声機材車とニュースサブを更新。音声機材車にVista 5、ニュースサブにOnAir 3000を採用され、既に稼働中の制作サブのD950M2と合わせ、音声卓をSTUDERで統一していただくことになりました。

株式会社サンテレビジョン
技術局
能美 俊一

地上デジタル放送開始

サンテレビジョンでは、局内外の放送基幹設備のHD化更新を順次進めていく過程において、弊社は特に野球中継等のスポーツ番組を重点的に扱うため、まず局外放送対応設備（中継車・受けサブ・報道系）から着手しました。HD大型中継車を2008年1月に更新した後、すぐにニュー



スサブ・受けサブの設備を更新、さらに3月には、5.1サラウンドに対応可能な音声機材車の更新（本紙17ページを参照）を行い、局外中継・リモート素材に対応するHD化を一気に完了した次第です。

ニュースサブ・受けサブ

ニュースサブと受けサブは、システムのコアを共用した『一粒で2度美味しい!?!』設備としました。ニュースサブ側はワイドニュース制作を中心に、数人の対談番組まで対応するものとし、受けサブ側は、スポーツ中継加工に特化させました。さらに緊急時の対応等も踏まえ隣接のスタジオ使用までを可能とするため、OnAir 3000をシステム・コアとしました。この1つのコアに対して、ニュースサブ側のメインミキサーデスクは24フェーダー、受けサブ側には6フェーダーを装備したコンソールデスクを用意しました。また、音声機材車で制作された5.1サラウンドにも対応する為、両サブとも5.1サラウンド音声のモニター環境を装備しています。

音声調整卓の選考基準

調整卓の選考基準は音声機材車とまったく同様で、通常基本的にワンマンオペレートでの運用が可能であることが大前提となります。ただし局内の場合は、ミニ番組からバラエティー・大型報道番組等、様々な番組に柔軟に対応できる音声卓でなくてはなりません。加えて音声機材車と同じく、どの様な制作環境にあっても音声卓の操作性

が大きく変わらない事も重要なポイントでした。そしてこれらを考慮した結果、STUDERのOnAir 3000に決定しました。

STUDER 製品で統一

弊社では旧音声車の「963」から始まり、2002年の第1スタジオ・サブ更新ではD950M2、そして今年度、音声機材車にVista 5、ニュースサブ・受けサブにはOnAir 3000を導入することになり、結果的に音声卓はSTUDER製品で統一されました。オペレーターは音声卓操作の互換ストレスを感じることも無く運用することが可能となりましたし、また、メンテナンスの対応窓口も1つとなる等、様々な効率が格段に向上したと思います。

